

美術館の建設場所に関する県民意識調査（再修正案）

美術館の建設場所に関する意識調査 御協力のお願い

日頃から県政の推進に御協力いただき、厚くお礼申し上げます。

鳥取県教育委員会では現在、県立博物館の美術部門を独立させ、新たに美術館を整備するため、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会（次ページ3参照）をお願いして、県立美術館の整備に関する基本的な方向性を取りまとめた構想の検討を進めていただいています。これまでの検討により、その構想内容の大半は固まり、先頃はこれについての県民意識調査も実施したところです。

しかし、美術館の建設場所については未だ結論が出ていないことから、今回の調査で、これまでの検討を踏まえつつ、県立美術館の建設場所について県民の皆様がどのように考えていらっしゃるのか把握し、同検討委員会や鳥取県教育委員会がこれを選定する際の参考にさせていただきたいと考えております。

調査対象は住民基本台帳から無作為に抽出した県内在住の16歳以上の5,000人の方ですので、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

＜御記入にあたってのお願い＞

- 封筒のあて名の方、御本人がお答えください。（この調査は無記名ですので、お名前を記入していただく必要はありません。）
- 始めに「美術館の整備を検討するに至った経緯」をお読みいただき、その後、調査票の質問に従って、当てはまる選択肢の番号を○で囲んで お答えください。（問6は口にレ印を付けてください。）また、選択肢の中の「その他」に○をされた方は（ ）の中に具体的内容を記入してください。
- 調査の回答によって個人が特定されることや、お答えいただいた情報を調査目的以外に使用することは一切ありませんので、あなたの率直なお気持ち、お考えを御記入ください。
- 御記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成29年〇月〇日（〇）までに郵便ポストへ投函してください。（切手は不要です。）
- この調査について御不明な点などがありましたら、下記まで御連絡ください。
 [問合せ先] 鳥取県立博物館 総務課美術館整備推進担当
 〒680-8570 鳥取市東町二丁目124
 電話：0857-26-8042 ファクシミリ：0857-26-8041
 電子メール：hakubutsukan@pref.tottori.jp

平成28年〇〇月 鳥取県教育委員会

《回答いただく前に、美術館の整備検討の経緯を説明します。》

- 1 県立博物館は3つの分野（美術、自然、歴史・民俗）にわたる総合博物館として開館して以来40年以上を経過し、建物の老朽化、収蔵庫の狭あい化、駐車場の不足など深刻な問題を抱えています。
- 2 こうした問題を解決するためには、現施設の拡張等が必要になりますが、現在の施設は国の史跡指定地内にあり、大規模な増改築や敷地拡張は不可能なことから、鳥取県教育委員会では、美術分野を新たに整備する施設（美術館）に移転し、現在の施設を残る2分野（自然、歴史・民俗）のための施設に改修する方向で、その具体的な検討を進めることとしました。
- 3 そこで昨年度から、新たに整備する県立美術館の目的、機能、施設設備や建設場所、事業計画など美術館を整備する場合の基本的な事項について、美術館の専門家の方や利用者の立場を代表する皆さんで構成する「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会」で、基本構想として取りまとめるべく検討していただいています。
- 4 去る10月には、これまでの検討により建設場所以外については構想内容がおおむね固まってきた（別添パンフレット参照）ことから、それについて今回の調査とは別に県民3,000人を対象に意識調査を実施したところ、その結果は次のとおりであり、回答者（対象者の49.2%）の7割前後の県民がこの基本構想に沿って美術館の整備を進めていくべきだと考えておられることがわかりました。

《前回の県民意識調査結果》

- ① 基本構想で整理された美術館の目的や機能についての考え方は、
適切である（66%）、おおむね適切だが更に留意すべき点がある（7%）、適切でない（2%）
- ② 基本構想で整理された美術館の施設設備や事業活動についての考え方は、
適切である（51%）、おおむね適切だが更に留意すべき点がある（13%）、適切でない（5%）
- ③ そのような美術館の必要性については、
必要であり整備を進めていくべき（45%）、どちらかと言えば整備を進めていくべき（31%）、どちらかと言えば整備を進めるべきではない（9%）、必要がなく整備を進めるべきではない（3%）

- 5 県立美術館の建設場所については、同検討委員会がその目的、機能、施設の在り方等から見て必要と考えられた条件（問7参照）に合う土地を市町村から推薦していただきました。そして推薦された候補地など13箇所について、当該条件に係る各分野の専門家を鳥取県立美術館候補地評価等専門委員に委嘱し、次のとおり半年近くにわたって慎重に調査・検討していただきました。専門委員の皆さんは13箇所を客観的かつ公平に評価された上で、他よりも建設場所に適している4箇所（問8参照）を選定されました。

今後その4箇所の中から、今回の意識調査の結果を踏まえ、上記3の検討委員会で建設場所1箇所を選定していただく予定です。

《鳥取県立美術館候補地評価等専門委員会の検討状況》

平成28年2月	評価の視点、進め方について検討
3月	市町村からの候補地推薦、専門委員が各候補地を現地調査
4月	候補地ごとの評価内容について検討
5月	上記評価内容に対する推薦市町村からの意見を踏まえて評価内容を再検討
6月	他より建設場所に適した候補地4箇所を選定

※以上の詳細については博物館ホームページ (<http://site5.tori-info.co.jp/p/museum/intro/1/1/>) をご覧ください。

問7 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会では、新しく整備する美術館の建設場所は、次のような条件を備えた場所でなければならないと考えておられます。
これらの条件（それに沿って各候補地の状況を整理すると、別添資料のようになります。）の中で、あなたが特に重要だと思われるのはどれですか。当てはまる番号を○で囲んでください。（1～6から3つ以内を選んでお答えください。）

1. 交通アクセスが便利・容易で、様々な人々が気楽に訪れることのできる場所

《視点：例示》

- ・ JR 主要駅から近く、近隣に多くの路線バスが走る。
- ・ 幹線道路から近く、周辺道路も整備されており、観光バスやマイカーも多数乗入れ可能
- ・ 市街地から近く、途中に急坂等がなく、徒歩や自転車でのアクセスも容易

2. 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能で、様々な人々が気楽に訪れることのできる場所

《視点：例示》

- ・ 周辺住民がよく行く相当規模の物販・娯楽施設等（の集積）から近い。
- ・ 多くの観光客が訪れる集客施設（観光地）と結んで観光コースが設定可能

3. 他の文化施設や教育機関と連携し易い位置にあり、地域づくり・まちづくりと連携し易い場所

《視点：例示》

- ・ 来館者の相互利用が想定される文化施設に近く、一体的な文化ゾーン形成も期待
- ・ 児童・生徒、学生・研究者等が利用し易い（学校、大学等に近接 or アクセス良好）

4. 地域づくりにより貢献できる、地域づくり・まちづくりと連携し易い場所

《視点：例示》

- ・ 周辺に美術館と連携して発展可能な集客機能集積（商店街等）がある。
- ・ 地域再生の核等として地域計画等で文化、集客施設が必要とされている。
- ・ 市町村、地元経済団体、自治会等にも美術館と連携して地域再生を進める意思・意欲がある。

5. 必要とされる機能を備えた施設を整備可能で、必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所

《視点：例示》

- ・ 十分な広さの建物敷地や駐車場の他、適切な環境緑地や収蔵庫の増設余地等も確保可能
- ・ 土地取得費用が過大でなく、土地の切り盛り、造成等にも過大な経費を必要としない。

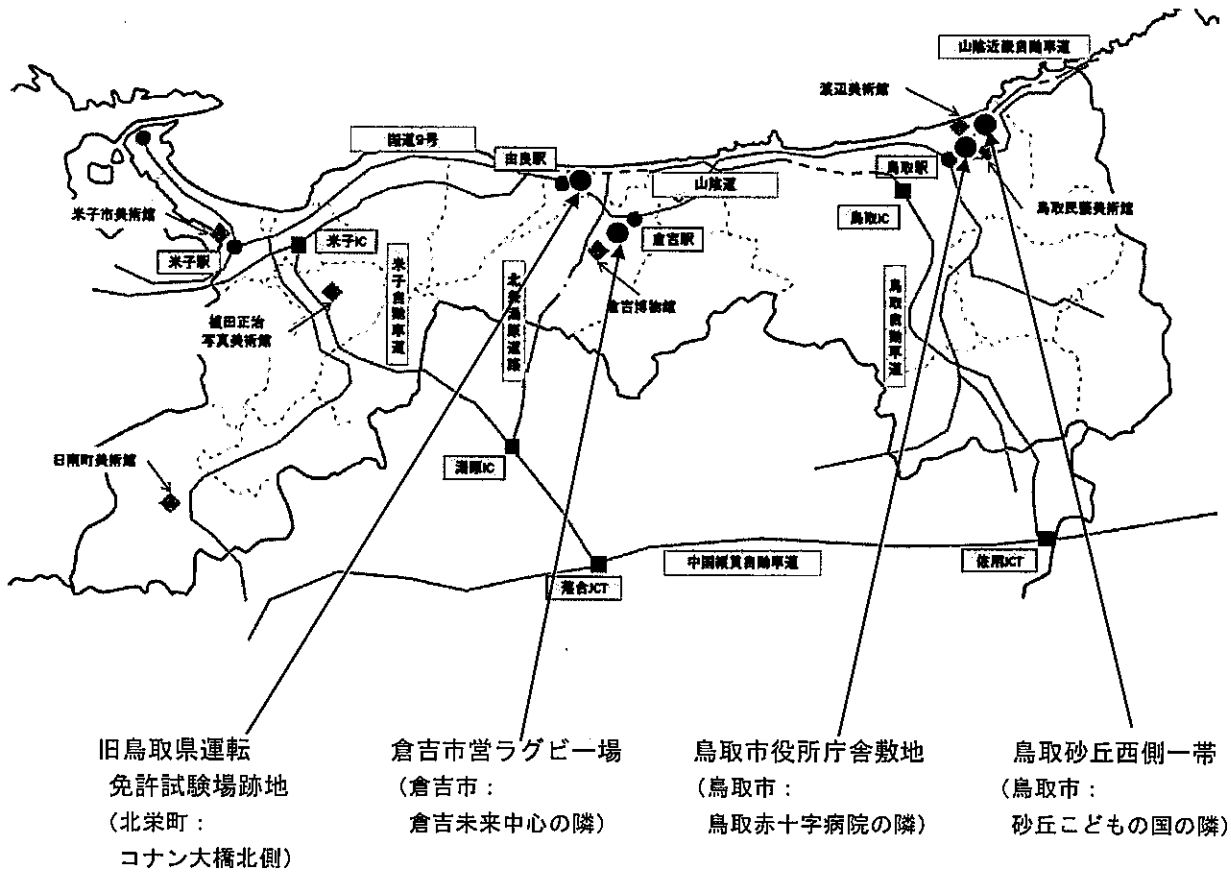
6. 防災上安全で、必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所

《視点：例示》

- ・ 津波、洪水、土砂崩落、地震等により被害を被る危険が少なく、地盤も堅固
- ・ 地盤改良、嵩上げ等に過大な経費を必要としない。

問 8 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会では、次の4つの候補地の中から建設地を選定しようとしておられます。これらの候補地のうち、あなたが新美術館の建設地として最も適切だと思われるのはどこですか。1ヶ所だけ選んでその下の口の中に○を記入してください。

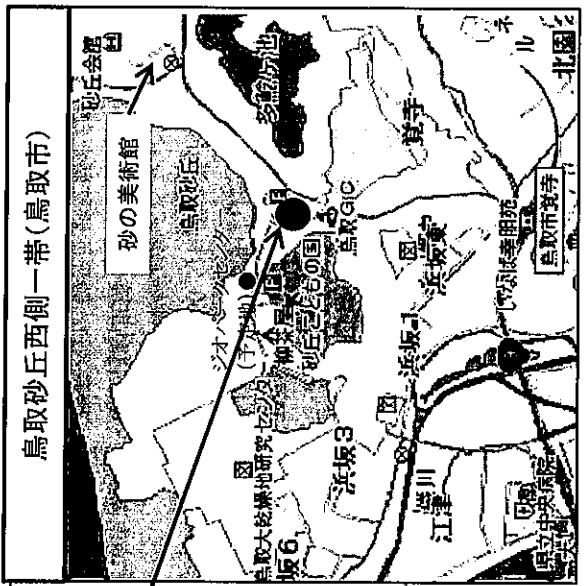
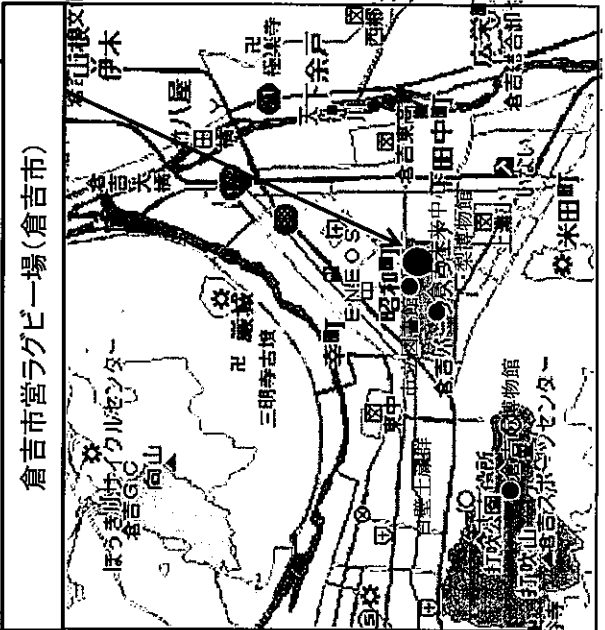
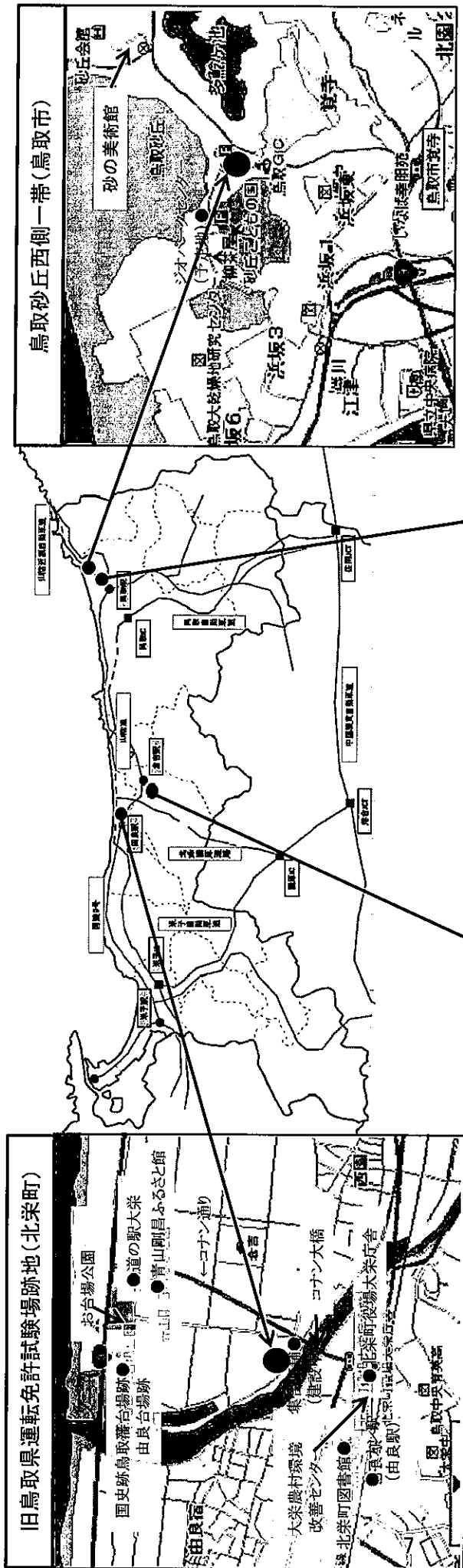
→ なお回答にあたっては、別添資料を参照してください。



問9 問8で選ばれた候補地が最も適切だと思われた理由をお聞かせください。



鳥取県立美術館建設候補地比較資料



候補地名称	旧鳥取県運転免許試験場跡地	倉吉市ラグビー場	鳥取市役所庁舎敷地	鳥取砂丘西側一帯
所在地	東伯郡北栄町由良宿 1289-3 ほか (コナン大橋北側)	倉吉市釈経寺 2 丁目 3-4 ほか (倉吉未来中心の隣)	鳥取市尚徳町 116 ほか (鳥取赤十字病院の隣)	鳥取市浜坂 1390-267 ほか (砂丘子どもの国の隣)
敷地面積	24,083㎡	22,020㎡	8,885㎡ (体庁跡地:8,307.05㎡ 第2庁跡地:577.82㎡)	65,932㎡ (市南地57,615㎡・民間8,317㎡)
土地所有者	北栄町 (無償提供される予定)	倉吉市 (無償提供される予定)	鳥取市 (無償提供される予定)	鳥取市 (無償提供される予定)、民間 (購入又は賃借が必要であるが、その費用は市ができる限り負担される予定。)
現況	一部に大型遊具(迷路)があるが、北栄町が撤去される予定。	倉吉市ラグビー場となっているが、その代替地は市の責任で整備され、県が補償等を行う必要はない予定。	市庁舎があるが、平成31年度末までに市が撤去される予定。	民有地には使用廃止建物があるが、その撤去費用は市ができる限り負担される予定。
そこに立地した場合の施設の基本的な在り方	<ul style="list-style-type: none"> 近くに観光集客施設があり、自動車によるアクセスも良好なので、多くの観光客の利用が見込める。 県下各地からの自動車によるアクセスが良好なので、県民の利用も見込める。 土地が広く平坦なことから、建物は低層とすることも可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地で多くの県民が利用する公共施設に近接し、周辺からの交通アクセスも良好なので、県民の日常的な利用が見込める。 周辺に観光施設等もあるので、観光客の利用も見込める。 土地が広く平坦なことから、建物は低層とすることも可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地で多くの県民が利用する公共施設に近接し、周辺からの交通アクセスも良好なので、県民の日常的な利用が見込める。 周辺に観光施設等もあるので、観光客の利用も見込める。 必要な延床面積を確保するためには、建物は中層(3~5階建て)となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本有数の観光地である鳥取砂丘の一面なので、多くの観光客の利用が見込める。 県民が日常的に訪れる場所ではないが、こどもの国利用者の誘導も見込めるので、県民の利用も見込める。 傾斜地に小規模な平坦地が分散しており、自然公園法の規制もあることから、建物は分棟化した上で、かなりの部分を地下化することになる。
《立地条件1》 様々な人が気楽に訪れることのできる場所	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では鳥取・米子から50分程度で来館可能。 北条湯原道路が整備されれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 最寄りのJR由良駅には、快速列車がJR鳥取駅・JR米子駅から40分程度で到着する。 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では鳥取・米子から60分程度で来館可能。 北条湯原道路が整備されれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 最寄りのJR倉吉駅には、特急列車がJR鳥取駅・JR米子駅から30分程度で到着する。 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では倉吉から60分程度、米子から100分程度で来館可能。 鳥取自動車道や山陰近畿自動車道が整備されれば県外からの新たなインターチェンジができれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 最寄りのJR鳥取駅には、特急列車がJR米子駅から60分程度、JR倉吉駅から30分程度で到着する。 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では倉吉から60分程度、米子から100分程度で来館可能。 鳥取自動車道や山陰近畿自動車道が整備されれば県外からの新たなインターチェンジができれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 最寄りのJR鳥取駅には、特急列車がJR米子駅から60分程度、JR倉吉駅から30分程度で到着する。
ア 交通アクセスが便利・容易であること。				

	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 由良駅から650mで、バス停も近く、その間の歩道も広い。 ・JR 倉吉駅からは約10km離れており、そこからの路線バスは23便/日程度が運行されている。 ・鳥取空港から連絡バスが運行。 ・由良駅からのタクシニーが、町の助成により片道340円で利用可能。 ・国道9号等からの自動車アクセスは良好。駐車場も十分に確保可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 倉吉駅から約3km離れているが、最寄りのバス停には約130便/日の路線バスが運行されている。 ・周辺の道路事情も良く、駐車場も隣接施設との共用、専用区画の整備等で十分に確保可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 鳥取駅から1km以内で、最寄りのバス停には約250便/日の路線バスが運行されている。 ・循環バス(くる梨)を使えば、他の観光施設へのアクセスも容易。 ・駐車場については、敷地内での確保は難しいが、隣接する鳥取市民会館が竣工から50年経過することとなり、美術館の着工時期を見据えながら、近い将来そのあり方を検討していく必要があり、移転により駐車場確保も視野に入れることが可能。 ・日常的なアクセスが可能な地域内に居住・通勤する者が最も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 鳥取駅から約6kmから離れているが、最寄りのバス停には18便/日程度の路線バスが運行されている。 ・循環バス(麒麟獅子)も運行。 ・自動車でのアクセスは良好だが、観光シーズンには渋滞が発生する。 ・鳥取市街地から1.5km以上離れている。
<p>イ 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に道の駅大栄(年間利用者43万人)、青山剛昌ふるさと館(同10万人)、お台場公園(同4万人)に近く、外国人を含めた観光客の誘導が可能。 ・徒歩圏内に多くの県民が日常的に利用するような物販施設等は少ないが、敷地内に町商工会が集合店舗を建設中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に倉吉未来中心(年間利用者21万人)、二十世紀梨記念館(同11万人)などが隣接し、一帯がイベント広場的に活用されている(倉吉パークスクウェア)。 ・徒歩圏内には物販施設も多く、それらの施設の利用者やイベント参加者の誘導が可能。 ・徒歩圏内に白壁土蔵群(年間入込客61万人)などの観光拠点もあり、観光客の誘導が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内にとりぎん文化会館(年間利用者30万人)、わらべ館(同12万人)、仁風閣(同3万人)、鳥取市歴史博物館(同3万人)、県立博物館(同7万人)などの集客・観光施設があり、これら施設の利用者の誘導が可能。 ・徒歩圏内に多くの店舗、事業所等が集積する商店街(平日約7万人が通行)があり、そこを訪れる人の誘導が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に鳥取砂丘(年間入込客130万人)、砂の美術館(年間利用者47万人)などがあり、これらを訪れる観光客の誘導が可能。 ・こどもの国(同16万人)に隣接しており、これを利用する県民の誘導が可能。 ・鳥取砂丘は県民が日常的に訪れる場所ではない(県民利用が少なくなっておそれがある)。
<p>《立地条件2》 地域づくり・まちづくりと連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青山剛昌ふるさと館は、家族連れや若者が多く、美術館とは客層が異なると考えられ、連携による相乗効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉未来中心、二十世紀梨記念館、市立図書館などと連携可能。 ・倉吉未来中心は、文化・芸術活 	<ul style="list-style-type: none"> ・とりぎん文化会館、県立図書館の他、県立博物館、鳥取市歴史博物館、わらべ館などの教育文化施設と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの国、砂の美術館、今後整備される砂丘ジオパークセンターなどと連携可能。

<p>し易い場所</p>	<p>が十分発揮できないおそれがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方、様々な人に訪れて貰って貰って多様な人や作品とのふれあいを通じて次代を担う人材に創造性を育むことを目指す新美術館においては、その家族連れや若者を取り込んでいくことが重要であり、マンガ・アニメを芸術と出会うきっかけとすることでそうした展開が図れる。 美術館の講堂等の機能が大栄農村環境改善センター多目的ホール(約400㎡)により、図書館の機能が北栄町立図書館により補充・拡充される。 美術館のギャラリー機能が上記ホールや中央公民館大栄分館ロビー展示場等も利用することにより強化される。 	<p>動などで市民に親しまれており、そのホールで美術館の講堂の機能を補充して連携を強化すれば、そうした活動に幅と深みが増す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立図書館については、職員同士の連携や作品と書籍の相互活用により、美術館の図書館コーナーの機能が補充・拡充される。 作品展の開催分担等をして倉吉博物館の展示室(計約880㎡)も利用することにより、美術館のギャラリー機能が補充・拡充される。 その他にも倉吉博物館とは、收藏品や学芸員の相互利用や連携強化を推進したり、緑の彫刻プログラム事業のノウハウ提供などにより、互いの機能強化が図れる。 	<p>可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術活動の拠点であるとりぎん文化会館のホールで美術館の講堂の機能を補充して連携を強化すれば、そうした活動が更に発展する。 県立図書館との連携を強化することで、美術館の図書館コーナーの機能が補充・拡充される。 ギャラリー機能については、鳥取市が市民ギャラリー(800㎡程度)として県立美術館内に合築整備し、運営される予定。 県立博物館と一体となって効率的に運営していくことや、鳥取市歴史博物館と收藏品や学芸員の相互利用や連携協力を推進することにより、互いの機能強化が図れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ギャラリー機能については、鳥取市が市民ギャラリー(800㎡程度)として県立美術館内に合築整備し、運営される予定。
<p>イ 地域づくりに貢献できる立地であること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に町商工会が集合店舗を建設中であり、相乗効果による地域活性化が可能。 前田寛治、生田和孝さらには青山剛昌など多く作家を輩出していることもあり、文化的な地域活動、地域づくりへの取り組みが盛んなので、相乗効果による活性化が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記施設の他、白壁土蔵群や倉吉博物館、その他周辺の物販施設等と連携した地域づくりが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の中心で商店街に近いことから、美術館に行つたついでに立ち寄りやすいことで経済波及効果が生じ易く、地域活性化に貢献可能。 一方で、住宅や商店が密集する中に立地することになるので、美術館固有の雰囲気を含みとして地域づくりに貢献するという可能性が限定的なものとなるおそれがある。 市内には多くの民間ギャラリーがあり、美術に親しむ土壌がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 眺望がよく、日本有数の観光地である鳥取砂丘の一面に立地するメリットが活かせるので、上記施設等とも連携して多くの観光客を惹き付けることができ、周辺の観光地帯に域づくりに貢献可能。 周辺住民の生活地域と離れている。(地域づくりの効果が広がり難い) 市内には多くの民間ギャラリーがあり、美術に親しむ土壌がある。

<p>《立地条件3》 必要な機能確保 ・施設設備が極力安価で可能な場所</p>	<p>・土地が広く平坦で、建築計画上の自由度が高い。敷地内駐車場などの確保も容易。</p> <p>・海岸に近く、塩害への対策が必要。</p>	<p>・土地が広く平坦で、建築計画上の自由度が高く、敷地内駐車場などの確保が容易。(候補地の中には既に駐車場が整備されている他、周辺には大規模な駐車場がある。)</p> <p>・隣接の史跡(大御堂禿寺跡)は、発掘調査により範囲が確定しており、候補地はその範囲外。当該史跡の区域も屋外彫刻展示などには利用可能。</p> <p>・整備費の一部に中心市街地活性化補助金が充当できれば県の整備費負担が3～4億円減少。</p>	<p>・土地が道路により2つ(本庁舎敷地と第2庁舎敷地)に分割される上、両地を合わせても他に比べて少し狭いので、建物が高層化すれば整備可能だが、敷地内駐車場や屋外彫刻展示などが十分行えないおそれがある。</p> <p>・江戸時代の城下町遺構が良好な状態で残っていることが明らかになっており、美術随着工前に埋蔵文化財調査が必要。(その費用は市ができる限り負担される予定)</p> <p>・整備費の一部に中心市街地活性化補助金が充当できれば県の整備費負担が1～2億円減少。(中心市街地活性化補助金の補助対象になるであろうギャラリーを市が整備されるので、県の整備費に対する同補助金の額はその分減少する。)</p> <p>・ギャラリーを鳥取市が合築整備されるので、県としては整備費が9～11億円(※1)程度減少し、運営費も毎年1千万円(※1)程度減少。</p> <p>・土壌中に処理に費用のかかる自然由来の有害物質(自然由来なので色々な所で検出される可能性がある)が含まれることが明らかになっている。(その費用は市ができる限り負担される予定)</p> <p>・市庁舎新築移転に関する住民訴訟が係争中(平成28年9月30日鳥取地裁却下・同日控訴)。</p>	<p>・自然公園法の建築規制(建物高さ13m以下、建築面積2,000㎡以下、建ぺい率20%以下、容積率40%以下、建物外観は自然との調和を乱さないこと等)により、建物を分棟化した上で、かなりの部分を地下化する必要があるため、整備費が約10億円(※1)程度増加する。</p> <p>・飛砂や塩害への対策(展示・収蔵設備の気密性強化など)が必要。</p> <p>・ギャラリーを鳥取市が合築整備されるので、県の整備費は9～11億円(※1)程度減少し、運営費も毎年1千万円(※1)程度減少。</p>
---	--	--	---	---

<p>イ 防災上安全な土地であること。(※2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(70年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天神川氾濫時には1～2mの浸水が想定されている。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千代川氾濫時には1～2mの浸水が想定されている(100年に1回程度降る大雨が前提)。 ・柔らかい地層が厚いので基礎杭を深く打ち込むことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。
-----------------------------	--	---	---	---

※1 これらの金額は、延床面積12,240㎡・整備費70～100億円・年間運営費4億円の美術館を整備することを前提に、一般的だと考えられる想定の下に行った大まかな試算値であり、想定どおりにならないかぎり変動すると思われれます。

※2 鳥取県は隠れ断層が多く、各地域の地震に対する安全性を既知の断層や震源からの遠近等で判断することは困難なため、候補地評価専門委員は、各候補地の近くで地震が発生する恐れは小さく、その地下が地震発生時に被害が大きくなるような地質構造をしていないかどうかで「地盤が堅固」等と評価されています。